

2. 調査・解析結果

検討項目 要 点 備考

2.4 処分場付近の岩盤状況
2.4.1 岩級区分基準

2.4 処分場付近の岩盤状況
2.4.1 岩級区分基準
処分場基礎岩盤の状態を評価するため、ボーリング調査で得られた各孔のコア試料をもとに、表-2.4.1および2.4.2に示す基準に従い岩盤の評価（岩盤等級区分：岩級区分）を行った。この岩盤評価の結果をもとに、処分場付近の岩盤状況を図-2.4.1～図2.4.3に示す岩級区分図として整理した。なお、各岩級区分に対する岩盤の状況は、表-2.5.3に示したとおりである。

表-2.4.1 細区分基準

記号	硬軟区分
A	極硬，ハンマーで容易に割れない
B	硬，ハンマーで金属音
C	中硬，ハンマーで容易に割れる
D	軟，ハンマーでポロポロに碎ける
E	極軟，マサ状，粘土状
記号	コア形状
	長さ50cm以上の棒状コア。
	長さが50～15cmの棒状コア。
	長さが15～5cmの棒状～片状コア。
	長さが5cm以下の棒状～片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
	主として角礫状のもの。
	主として砂状のもの。
	主として粘土状のもの。
	コアの採取ができないもの。スライムも含む。
記号	割れ目状態区分
a	密着している，あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが，岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの岩片に風化・変質が認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状，砂状，粘土状コア。

【本調査地における岩盤状況の概要】
CH級岩盤・・・岩質は新鮮・堅硬で、割れ目の少ない塊状岩盤。
CM級岩盤・・・岩質は新鮮・堅硬であるが、割れ目が多く5～20cmの間隔で割れ目が発達する。一部の割れ目沿いには弱い風化が認められる。
CL級岩盤・・・岩質は新鮮であるが、割れ目が密に発達し、一部礫状に細片化した箇所を伴う。一部では、風化により軟質化した箇所を伴う。
D級岩盤・・・細片化が進み角礫～砂状を呈し、一部では粘土化した箇所を伴う。

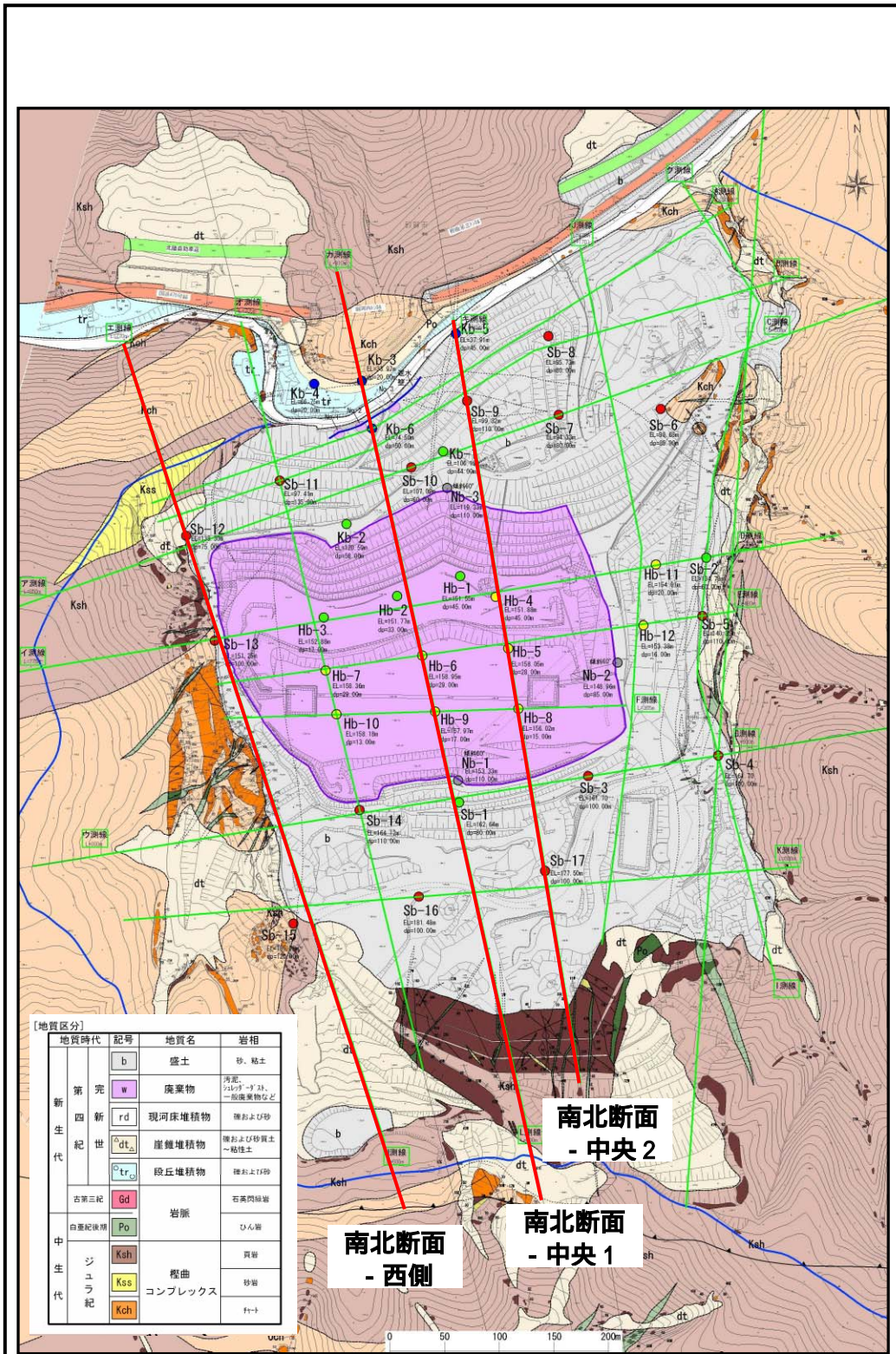
表-2.4.2 細区分組み合わせ基準

硬軟	コア形状	割れ目状態			
		a	b	c	d
A		CH	CH	-	-
		CH	CH	-	-
		-	CM	-	-
		CM	CM	-	-
B		-	CL	-	-
		CH	-	-	-
		CH	CM	-	-
		CM	CM	-	-
C		CM	CM	CL	-
		-	CL	CL	-
		-	CL	CL	D
		-	CL	CL	-
D		-	-	D	D
		-	-	-	D
		-	-	-	D
E		-	-	-	D
		-	-	-	D
		-	-	-	D

表-2.4.1 細区分基準
表-2.4.2 細区分組み合わせ基準

1 岩盤の評価は、ボーリング柱状図作成要領(案)解説書(改訂版)，(財)日本建設情報総合センター(平成11年5月)に基づいて行った。

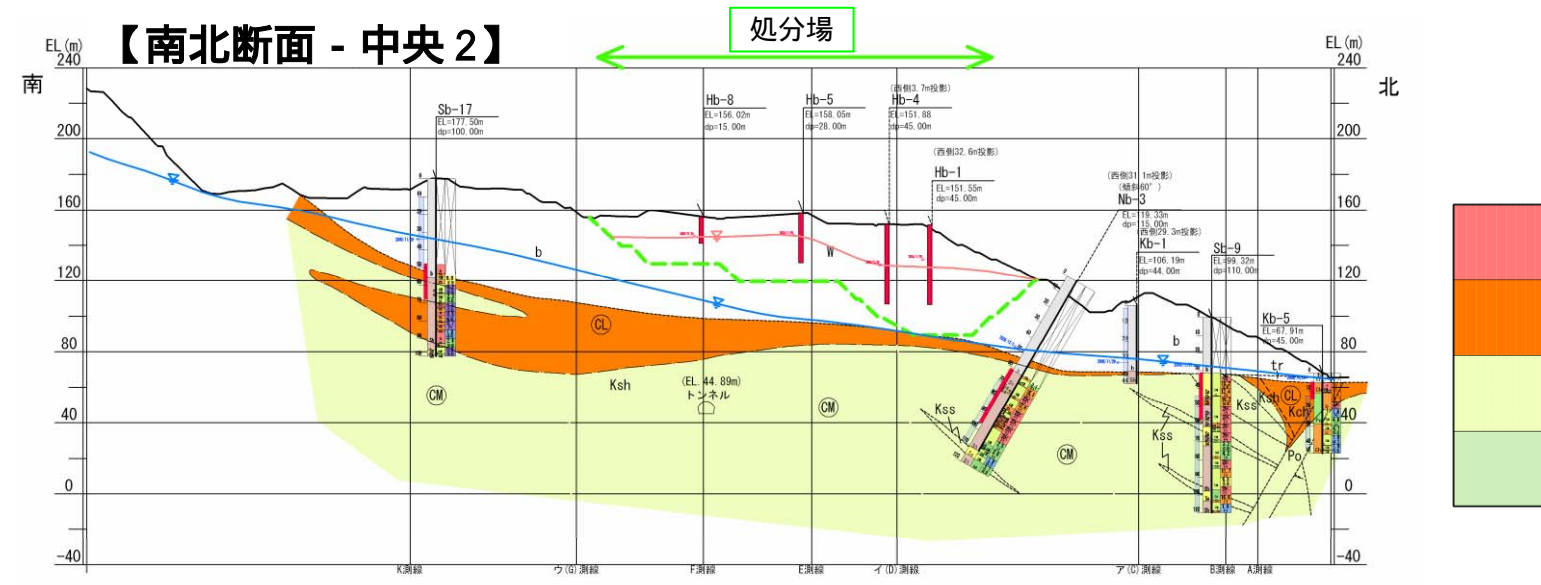
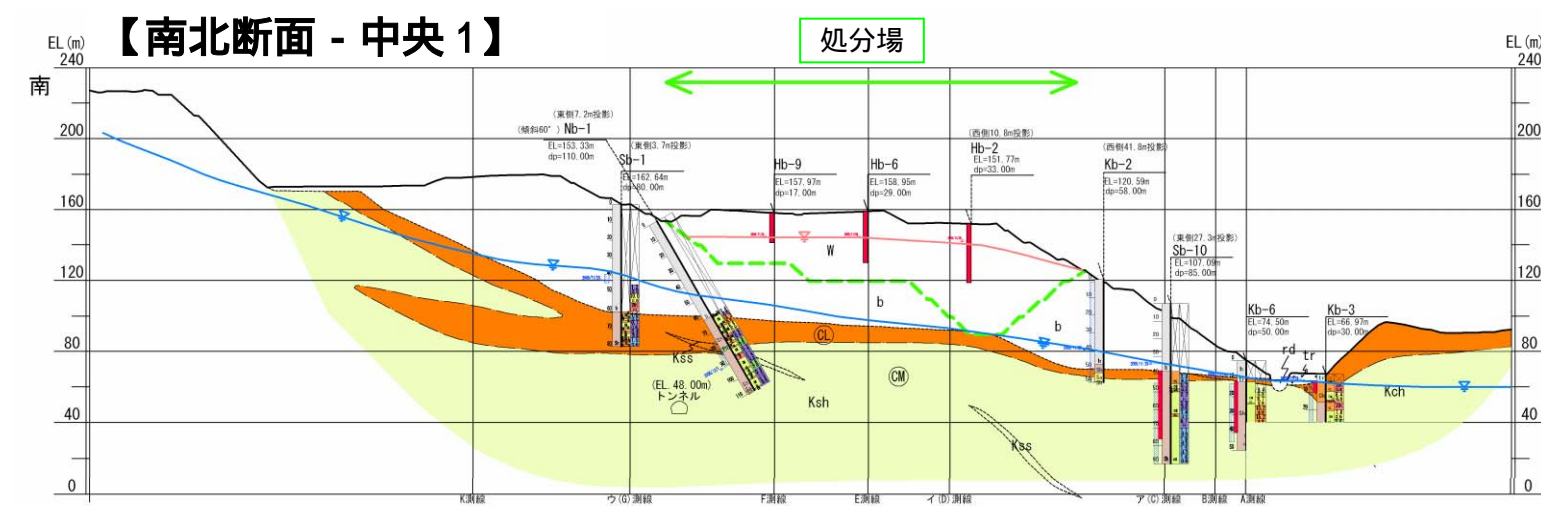
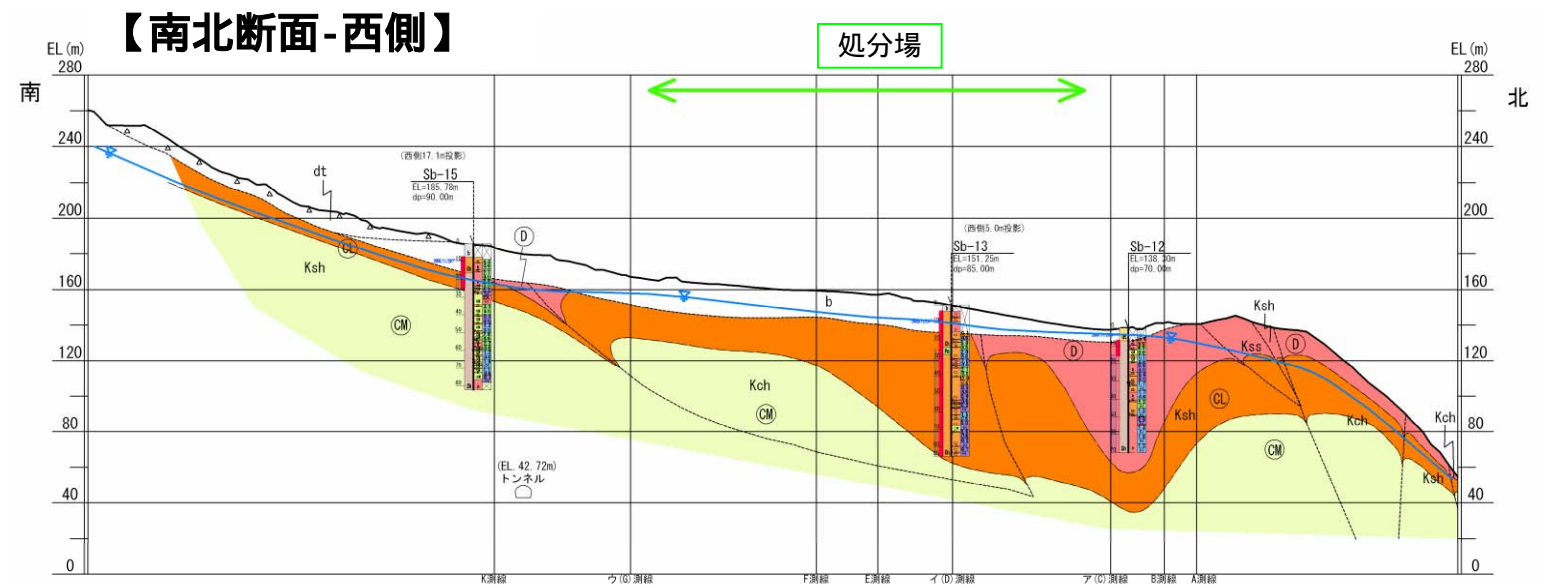
2. 調査・解析結果		
検討項目	要 点	備 考
<p>2.4 処分場付近の岩盤状況</p> <p>2.4.2 処分場基盤部の岩盤状況</p>	<p>2.4.2 処分場基盤部の岩盤状況</p> <p>ボーリング調査で確認された岩盤状況と物理探査結果に基づき岩級区分図を作成した。図-2.4.1～2.4.3に処分場南北方向、処分場東西方向の各測線沿いの岩級区分図を示す。</p> <p>処分場付近に分布する岩盤の特徴は、以下のように整理される。</p> <p>【南北断面】</p> <p>処分場の西側断面では、CL級岩盤が南側の山側で薄く北側で厚くなる傾向が認められる。特に、Sb-12付近（処分場北西部）ではD級岩盤，CL級岩盤が河床レベル（標高約65m）まで深まる。</p> <p>処分場下（中央1，中央2測線）断面には、土砂部との境界付近にCL級岩盤が10～20mの厚さをなして分布するが、以深ではCM級岩盤となる。このCL級岩盤は、北側の河床部では薄く、南側の山側で厚くなる傾向が認められる。</p> <p>処分場の東側断面では、処分場下に比べ全体にCL級岩盤が厚く、特に山側（処分場南東部）のSb-4孔付近で深まる傾向が認められる。</p> <p>【東西断面】</p> <p>木ノ芽川沿い断面では、堰堤部下の岩盤は、河床標高部付近ではCM級岩盤が主体となる。ただし、頁岩とチャートとの境界部付近や、西側の山体部では、CL級岩盤ないしはD級岩盤が厚くなる傾向が認められる。</p> <p>処分場中央断面では、処分場下にCL級岩盤が厚さ10m程度分布するが、その下にはCM級岩盤が分布する。このCL級岩盤は、土砂の層が薄くなる処分場の東側および西側で厚くなる傾向が認められる。</p> <p>処分場の南側断面および山側断面では、他の測線に比べCL級岩盤が厚くなる傾向が認められる。特に、東側においては、CL級岩盤の厚さはSb-3，4付近を中心として約100mに及ぶことが確認された。西側では、厚さ20～40mのCL級岩盤が分布するものの、その下にCM級岩盤が概ね地形に沿って分布している。</p>	<p>図-2.4.1 処分場周辺の岩級区分図 （南北-西側・中央1・2）</p> <p>図-2.4.2 処分場周辺の岩級区分図 （南北-東側、東西-木ノ芽川沿い・堰堤部）</p> <p>図-2.4.3 処分場周辺の岩級区分図 （東西-中央・処分場南側・山側）</p>



【地質区分】

地質時代	記号	地質名	岩相
新 生 代	b	盛土	砂、粘土
	w	廃棄物	汚泥、 プラスチック、 一般廃棄物など
	rd	現河床堆積物	礫および砂
	dt	崖堆積物	礫および砂質土 ～粘土土
	tr	段丘堆積物	礫および砂
古 第三 紀	Gd	岩層	石英質砂岩
	Po	岩層	ひん岩
中 生 代	Ksh	層	頁岩
	Kss	層	砂岩
	Kch	コンプレックス	頁岩

処分場付近の地質平面図
【断面作成位置図】



凡例

	D級岩盤
	CL級岩盤
	CM級岩盤
	CH級岩盤

図-2.4.1 処分場付近の岩級区分図（南北-西側・中央1・2）